

7 読めない漢字を進んで読もうとする習慣を身に付けさせる指導について  
(5・6年)

【調べ学習の資料例】

野口英世【一八七六～一九二八】

世界的な細菌学者。幼名は清作。

済生学舎で医学を学び、その後、伝

染病研究所で北里柴三郎に師事。明

治三十三年に渡米、デンマーク留学

後、ロックフェラー医学研究所員に

推挙される。南米のエクアドルで黄

熱病……

サイドラインの漢字が四点、  
それ以外の漢字が二点

【指導の流れ】

1 社会科や総合的な学習の時間などで、調べ学習をするときに、習っていない漢字と出合ったとき、できるだけ自力で読むように習慣付ける。

「前後の文章から見当を付けたり、へんやつくりから、読み方や大まかな意味の見当を付けたりしてから、国語辞典で調べましょう。見当がはずれて調べられなかった時は、漢字辞典を使いましょう。」

2 宿題や朝のスキルタイムなどで、有名な文学作品や新聞記事、説明書などの一部を視写させたり、プリントにしたものを配布したりして、振り仮名テストを行う。

「これは、有名な の という小説の一部です。辞典を使ってもよいことにするので、制限時間内に、できるだけ正しく、たくさん答えられるようにしましょう。習った漢字は二点、まだ習っていない漢字は四点到します。」

【留意点】

1 調べ学習のとき、読めない漢字に出合ったとき、児童はすぐに友達や担任に聞いてしまふ傾向にあるので、自分で考えたり、調べたりする習慣を身に付けることが大切であることを理解させる。

五年時の漢字の由来の学習を想起させて、へんやつくりから読みの見当を付けさせて、国語辞典で引く手順を把握させる。

最初は調べるのに時間がかかるかもしれないが、慣れてくると素早く引けることや、全体的に速くなってきたときに、話題として取り上げ、賞賛するようにする。

2 未習漢字の方の得点を高くすることにより、未習漢字に対して意欲的に調べようとする態度を育成する。

今後も、自主勉強などで、文学作品の一部や新聞記事などを視写し、振り仮名を付けるような学習に進んで取り組むことを勧める。